

テーマ	移行期の学校数学カリキュラムにおけるアラインメントの理論的・実証的研究
発表者	宮崎樹夫 (信州大学), 川添充 (大阪府立大学), 清水宏幸 (山梨大学), 岩田耕司 (福岡教育大学), 清水美憲 (筑波大学), 影山和也 (広島大学), 齊藤一弥 (島根県立大学), 清野辰彦 (東京学芸大学), 市川啓 (宮城教育大学), 西村圭一 (東京学芸大学), 蒔苗直道 (筑波大学)
指定討論者	笠井健一 (国立教育政策研究所), 水谷尚人 (国立教育政策研究所)
趣旨及び概要	教育課程の移行期にある日本の数学教育において, 学校数学カリキュラムを「意図」・「実施」・「達成」という三層から捉えたとき, それらをいかに整合的かつ機能的に整列 (アラインメント) させるかは研究上の重要な検討事項である. 本研究課題は, 「資質・能力論に基づく学校数学カリキュラムの三層のアラインメントの実相はどのようなものか」という研究上の問いを設定し, 「意図」が「実施」・「達成」へといかに移行していくかを多面的に検証する. そのために, 小中高の新しい算数科・数学科教科書にみられる「意図」の分析, 小中学校での学習指導で観察される「実施」のプロセスの分析, 児童生徒の活動とその評価等への新しい展望に関する教師の認識の変容について, アラインメントという観点から理論的・実証的に検証することを目標とする.